

リニューアルオープンから1周年 農彩館 矢野とれとれ市場“感謝彩”



安芸区にあるJA広島市の直営産直市「農彩館 矢野とれとれ市場」は、昨年1月のリニューアルオープンから1周年を記念して、3月12日～14日に“感謝彩”を開催しました。広島県内の新型コロナウイルス感染拡大状況を考慮し、約1ヵ月半遅れての周年イベントとなりましたが、花苗や紅白もちのプレゼント、瀬戸内産柑橘の袋詰めイベント、管内産の農畜産物の特売などを行い、地元をは

じめ広島市内などから多くの方にご来場いただきました。今後も地域に密着した産直市として管内産を中心とした農畜産物や加工品を取り揃えて、みなさまのご来店をお待ちしております。



白木町にイチゴ狩り農園開園 JA広島市地産地消クッキング



地産地消をテーマに毎月行っている地産地消クッキング。3月も新型コロナウイルス感染防止のため、受講生の料理教室への参加は見合わせましたが、安佐北区白木町で観光農園「mogberry(モグベリー)」を6日にオープンさせた中池農園の中池哲平さんから、みずみずしいイチゴが食材として届きました。ANAクラウンプラザホテル広島の大森一憲シェフが、デザートではなく食事として楽しめるイチゴのレシピ2品を紹介。農園スタッフの中池芳子さんが、イチゴの新たな食べ方に感嘆しながら試食しました。観光農園では、入場制限や消毒などの対策を施し、「コロナ禍でも楽しんでもらえる施設を提供していきたい」と哲平さんは新たな挑戦に意欲的です。



第36回

JAグループは、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標として、組合員、地域から「必要とされ、なくてはならない存在」となることを目指し、さまざまな取り組みを展開しています。

JA広島市の自己改革

栽培技術を向上し農業生産の拡大と農業所得の増大を

JA広島市では、第8次中期経営計画に掲げる基本目標「地域農業の活性化による農業生産の拡大と農業所得の増大」を実践するための方策として、第6次営農振興計画を策定し、産地振興の強化、販売力の強化、担い手育成と農業経営対策の強化、農地の保全と都市農業の振興の4つの重点実施事項に取り組んでいます。その一環として、農家組合員を対象とした各種セミナーを実施しており、3月22日にはブドウ栽培技術の強化、生産性の向上を目的に「ブドウ栽培に関するセミナー」を開催。JA広島市管内各地から43名のブドウ生産者が参加し、広島県西部農業技術指導所の西森晋輔参事からブドウの品種や安定生産するための剪定・整枝、病害虫対策などブドウ栽培に係る技術や知識を学びました。

また、一昨年、昨年と大量発生したウンカをはじめとした病害虫への対策や栽培技術を学び、稲作の生産性の向上を図るため「稲作病害虫対策セミナー」を27日に開催。特にウンカ被害の多かった広島市内を中心に51名の稲作農家組合員が参加し、営農振興課の松木忠幸課長や全農ひるしまの担当者から、ウンカの生態や発生パターン、効果が期待できる薬剤について説明を受けました。



ブドウ栽培に関するセミナー



稲作病害虫対策セミナー